

## 平成 28 年度 第 1 回 荒尾市地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

日時：平成 28 年 6 月 24 日（金）午後 2 時 30 分～午後 4 時 10 分

場所：荒尾市役所 41 号会議室

出席者：荒尾市地域公共交通活性化協議会委員 31 名（内代理出席者 2 名）

※別紙出席者名簿のとおり

### 【事務局】

（政策企画課）

宮脇課長、田中課長補佐兼政策経営室長、林田参事、平山

（都市計画課）

西田課長、大神課長補佐兼計画係長、松尾

（UR 都市機構 九州支社 都市再生業務部）

田中地方都市再生推進役、長江まちづくりマネージャー

### 1. 開会

宮脇政策企画課長から、資料の確認がなされた後、開会が宣言された。

### 2. 委嘱状交付

市長の代理として江上総務部長から、委員を代表して溝上委員に委嘱状が交付された。各委員の委嘱状については、机上に配付している旨が報告された。

### 3. 会長あいさつ

設置要綱第 5 条第 2 項により会長に就任する江上部長からあいさつがなされた。

- ・九州各地に甚大な被害をもたらした熊本地震では、公共交通機関にも多大な影響を及ぼし、改めて、住民の移動を担う公共交通の重要性を認識した。
- ・本協議会においては、平成 24 年度から、本市における目指すべき地域公共交通のあり方や、本市の最適な交通体系等について検討を重ねてきた。
- ・本日は、平成 27 年度の路線バス及び乗合タクシーの運行状況や平成 29 年度の生活交通確保維持改善計画、今年度策定予定の立地適正化計画等について協議していただく予定である。
- ・皆様のご協力を賜り、忌憚のないご意見をいただきたい。

### 4. 委員紹介

宮脇課長から、今回新たに就任された委員及び欠席委員、代理出席者の紹介が行われた後、事務局職員の紹介がなされた。また、その他会議出席者については、配席図をもって紹介に代えさせていただく旨が報告された。また、委員出席が過半数を超えており、本会が成立している旨が報告された。

## 5. 副会長選出及び監査委員指名

設置要綱第6条第2項により、会長が議長に就任した。設置要綱第5条第2項により、副会長は委員の互選により選任することとなっているが、立候補がなかったため、事務局により溝上委員を提案した。意見等なく、承認された。

また、監査委員については、設置要綱第8条第2項により、会長が委員の中から指名することとなっており、引き続き、玉名地域振興局から古田委員、荒尾市観光協会から進藤委員が指名された。

## 6. 経過報告

### (1) 路線バス・乗合タクシーの運行状況等について

### (2) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

事務局（平山）から、公共交通マップに基づき、本市の公共交通体系について説明した後、資料1及び資料2に基づき、平成27年度の路線バス・乗合タクシーの運行状況等及び地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について一括して報告した。

路線バスについては、利用者数は減少傾向が続いているものの、補助金額の削減に繋がっていること、乗合タクシーについても利用者数は減少傾向であるが、時間帯別や曜日別に集計すると特徴的な傾向が出ていることなどを報告した。

#### 《主な質問・意見など》

- 公共交通確保維持改善事業に関する事業評価の別紙資料について、乗合タクシーと路線バスとでは改善点は異なるだろうし、同じ乗合タクシーや路線バスでも、地区や路線ごとに状況が異なるだろうから、事業者と連携して改善点の検討を十分に行ってもらいたい。  
路線バスに対する補助金額について、国庫補助が入ってはいるものの、市の負担として4千万円近いお金が支出されている。この額は決して小さくなく、市民の税金で賄われているものであるため、住民におかれては積極的に公共交通機関を利用し、この負担が小さくなるよう、努めてもらいたい。
- 路線バスの状況について、利用者数が減っているが補助金額も減っている。どのような理由か。  
→燃料費の価格が下がっていることや、事業者の企業努力により経費を削減していることなどが挙げられる。（事務局）

## 7. 議事

### (1) 平成27年度事業報告（案）及び収支決算（案）並びに監査報告について

事務局（平山）から、資料3及び資料4、参考資料③、参考資料④に基づき、平成27年度事業報告（案）及び収支決算（案）について説明を行った。併せて、西鉄バス久留米株式会社の原口営業部長から、16番系統の万田坑までの延伸について紹介された。

その後、本協議会の監査委員である進藤荒尾市観光協会専務理事から、関係帳

簿並びに証憑書類などは適正に処理され、差引残高は通帳の預金残高と相違ない旨、監査報告がなされた。

協議の結果、承認された。

#### 《主な質問・意見など》

- 乗合タクシーの予約時間を変更したことについては好評のようだ。利用方法についてまだ十分に周知しきれていないところがあるし、一般の乗用タクシーとの違いを理解していない方もいる。今後は利用者数が増えていくのではないかと思う。
- 高齢化が進み、外出する人が減っているため、乗合タクシーの利用者は減っているような気がする。
- 路線バスは乗換えを行う必要があるため、利便性が低いと感じる。循環バスの導入を検討してほしい。  
→循環バスについては、合志市に成功事例がある。運行範囲に差があるためそのまま本市に当てはめることはできないが、有効な手段の一つだと思うため、地理的な条件等が合えば、導入を検討してもらいたい。(溝上副会長)
- 地区の中でも利用状況に差があり、近所の方が送迎したりしている場合もある。当初から乗合タクシーを利用している人は、利用方法などはもう慣れたと聞いている。あらおシティモールまでしか行けず、荒尾市民病院まで乗り入れることができないのが、利用者数が伸びない原因ではないかを感じる。
- 文化センター前を通る路線がほとんどないため、催し物があってもバスを利用して行くことが難しく、高齢者が参加しにくくなっている。ダイヤ改正などの際は、増便など路線の充実を検討してほしい。

#### (2) 平成 28 年度事業計画 (案) 及び収支予算 (案) について

事務局(平山)から、資料 5 及び資料 6 に基づき、平成 28 年度事業計画(案)及び収支予算(案)について説明を行った。リニューアルした市ホームページや市広報紙による情報発信の強化を中心に、路線バス乗り方教室などを実施することなどを計画している。

質問や意見等は無く、承認された。

#### (3) 平成 29 年度荒尾市生活交通確保維持改善計画 (案) について

事務局(平山)から、資料 7 に基づき、平成 29 年度荒尾市生活交通確保維持改善計画(案)について説明を行った。

本計画は、国の補助金を受けるに当たり申請する必要があるものであり、補助対象路線は、住吉線及び倉掛線、八幡台線と、平井地区及び府本地区で運行している予約型乗合タクシーである。申請額は 6,661 千円で、補助対象経費は、事業者の収益状況を基に計算した経常収益の見込額から、運行計画に基づく経常費用の見込額を差し引いて算出している。今回は、算出した額が国庫補助の上限額を超えているため、上限額で申請することとしている。

協議の結果、承認された。

《主な質問・意見など》

- | 字が小さくて見にくいいため、印刷方法や様式を改善してほしい。

#### (4) 立地適正化計画について

事務局（大神都市計画課長補佐、松尾）から、資料 8-1 及び資料 8-2 に基づき、立地適正化計画制度の概要や計画策定の必要性について説明を行い、資料 8-3 に基づき、本市の都市構造の特性について説明を行った。

今後、人口減少下でも一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティを持続的に確保していくため、居住や都市機能を誘導していくことを目的に、立地適正化計画を策定したいと考えている。コンパクトシティを推進するためには、公共交通をはじめとする交通のネットワーク化が重要であるため、計画策定に当たっては本協議会において意見を聴取することとしている。本市は、JR 荒尾駅周辺地区と緑ヶ丘地区周辺の 2 つの拠点を中心に市街地が形成されており、比較的コンパクトな都市構造を維持しているため、現在の都市構造をベースに、緩やかな誘導を図っていきたいと考えている。11 月に予定している次回の会議で、具体的な区域設定について意見を伺った後、市民説明会等を開催し、今年度の 3 月に計画を策定する予定である。

《主な質問・意見など》

- | 長年の懸案事項である荒尾駅の東口の設置について、進捗はどのようになっているのか。  
→東口の設置についての課題認識は持っているが、まずは駅のバリアフリー化について、JR との協議を継続している状況である。乗降客数などの条件はあるが、JR にも前向きに検討していただいている。東口の設置については、今年度、荒尾駅周辺について調査事業を行うこととしているため、その結果も含め、改修等に早期に着手できるよう検討を進めていく。（事務局）
- | 立地適正化計画と公共交通のネットワーク化は密接に関わるため、今後策定が予定されている地域公共交通網形成計画も連携して策定していく必要がある。地方都市ほど人口減少の影響は顕著であるため、その影響を見越し、早めに計画的に対策を進めることが重要である。
- | 都心副都心構想については従来から検討してきており、緑ヶ丘地区周辺については開発が進んできたものの、荒尾駅周辺はほぼ手付かずの状態である。立地適正化計画の策定に当たっては、これまで進めてきた取組とも整合を図りながら進めていただきたい。

#### 8. その他

城戸委員から、夏休み期間中に小学生を対象に発売する定期券「キッズパス」及び、熊本地震に伴う休校の影響で夏休みが短くなる中学生・高校生向けに販売する期間限定の定期券「CKP」について紹介された。

## 9. 閉会

宮脇課長から、閉会が宣言された。